

二〇二二年一月一五日(参加者二一名)

イエス像もろ手を翳す天高し	うつぎ
な踏みそマリアの前の彩紅葉	うつぎ
修女らの自給自足の冬菜畑	うつぎ
マリア像恋ふやに來たる小鳥かな	うつぎ
磔像の部屋まで届け紅葉影	うつぎ
冬菜畑生き生き修道士は見えぬ	うつぎ
出現のマリアはここと櫃紅葉	あひる
黙想の庭其処此処に笹鳴ける	あひる
ピエタ像トラピスチヌの庭小春	あひる
どんぐりの幾許祈りの道に敷く	あひる
穏やかな日差がつつむ実万両	わかば
影落とすマリアに水の澄めりけり	わかば
照紅葉白垂のイエス御手ひろげ	わかば
どんぐりの磔は神のみ告げかも	わかば
木洩れ日の道をつづりし石露の花	ふさこ

背の紅葉映すガラス戸万華めく	ふさこ
芝庭に足投げ出して日向ぼこ	ふさこ
老松に命吹き入れ蔦紅葉	もとこ
朽ちかけの鳥居に隣る木守柿	もとこ
朝霧を脱ぎて比叡は全容を	もとこ
一とかけの雲なき美空鳥渡る	小袖
冬菜畑トラピスチヌの裏庭に	小袖
碧眼のシスターと逢ふ紅葉山	よう子
どんぐりの祈りの道や足裏爆ず	よう子
照紅葉宮の一隅明るうす	たか子
分け入れば祈りの道の秋深し	豊実
陽射し燦トラピスチヌの冬菜畑	ぼんこ

定例会の選

二〇二二年一月一五日(参加者二一名)